

令和6年度学校評価計画書

廿日市市立四季が丘小学校

評価計画					自己評価					学校運営協議会 委員評価 コメント	改善方策
中期経営目標 (めざす児童生徒像)	短期経営目標 (めざす児童生徒像)	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標	中間 8月	最終 2月	達成 率	評価	結果と課題の分析		
<p><確かな学力></p> <p>・「主体的対話的で深い学び」の実践</p> <p>・「思考力・表現力」「自己有用感」の育成</p>	<p>・基礎・基本の徹底と学習意欲の向上</p>	<p>・基礎・基本の問題の繰り返し学習</p> <p>・めあて、まとめ、評価の一体化</p>	<p>・学力定着状況調査 全国平均以上</p>	+2以上	—	+1.9	95%	B	<p>国語科では、知識技能においては、概ね目標値を達成している。しかし、言葉の特徴や使い方について正しく理解できていない。思考・表現においては、正確に読み取ったり、話したり聞いたりする領域に課題が見られた。</p> <p>算数科では、基本的な計算問題については、計算を処理する力は身に付いている。しかし、図形の領域において、角度や平行・垂直、図形の名称などについて正確な理解ができていない。また、作図の際に、垂直や平行などの感覚が身に付いておらず、正確に作図ができないという課題が見られた。</p>	<p>見やすく大きな字で丁寧に板書を行っていることは素晴らしい。今後は、下敷きを使用する習慣を徹底させてほしい。国語科の学習においては、書く活動を充実させ、表現する力を身に付けさせてほしい。算数科の学習においては、ICTを効果的に活用することも大切であるが、具体物を通して算数的活動を充実させ、量感を体験的に培ってほしい。</p>	<p>国語科では、ICTを活用し、言語や漢字の定着を図るなど、語彙力を高める取り組みを行う。また、校内で読書の推進を引き続き図り、文章を読み慣れるようにする。</p> <p>算数科では、計算問題や算数用語の理解に関する問題などに繰り返し取り組み、基礎学力を高めていく。また、量感を体験できる具体物の操作等も積極的に取り入れる。</p> <p>両教科とも、フォローアップタイムなどで前学年の復習を取り入れるなど、系統的に学力の定着を図る。</p>
	<p>◎思考力・表現力の育成</p> <p>・ICTを活用した授業づくり</p>	<p>・協働的な学習による学び合いの場の充実</p> <p>・主体的な学びを伸ばす個別最適な学びの場の工夫</p> <p>・授業研究の充実</p>	<p>・「分かりやすく工夫して相手に伝えることができる」肯定的評価の児童の割合</p> <p>・課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む児童の割合【市共通項目】</p> <p>・「ICTを活用した授業づくりに取り組んでいる」肯定的評価の教師の割合</p>	<p>85%</p> <p>85%</p> <p>85%</p>	<p>86%</p> <p>84%</p> <p>100%</p>	<p>90%</p> <p>88%</p> <p>94%</p>	<p>106%</p> <p>104%</p> <p>110%</p>	A	<p>ICTの活用で児童が活用しやすいアプリを取り入れたことで、いろいろな表現を取り入れて学習することができ、児童の肯定的評価につながった。また、研究授業に関わる協議や、ICTの授業交流で活用の仕方を学び合ったことが授業改善につながり、日々の協働的な学習や個別最適な学びの場の工夫につながった。</p> <p>思考をアウトプットさせる活動について更に工夫していく。また、自主学習にも引き続き取り組み、自立した児童の育成を図る。</p>	<p>話をする時に話し手を見るという学習規律は定着しているようである。ICTを効果的に活用するためのタイピングも上達している。ICTを効果的に活用して、多くの情報を見極め、しっかりとアウトプットしていくことを大切にしていきたい。</p>	<p>学びを活かす場や、協働的な学習の場を設定し、分かりやすく工夫して伝えようとする児童の育成を図る。また、個々が自分に合った学習を選択する複線型の授業づくりや、自主学習、チャレンジデーに取り組み、自分で工夫して学びを進める習慣を定着させ、自立した学習ができる児童の育成を図る。ICTを効果的に活用した授業づくりに取り組む。</p>
<p><豊かな心></p> <p>・自他のよさを認め合い、友達と協働しながら、共に高まり合う児童の育成</p> <p>・自己有用感の涵養</p>	<p>・規範、規律、礼儀の徹底</p>	<p>・四季小三大名人(挨拶、靴そろえ、右側歩行)の指導と評価の徹底</p> <p>・月に1度のあいさつ運動の実施</p>	<p>・「自分から進んであいさつができる」肯定的評価の児童の割合【小中共通項目】</p>	88%	89%	87%	99%	B	<p>あいさつの肯定的評価は、87.7%で目標値を下回った。あいさつ名人の表彰は、児童にとって意欲付けにはなっており、進んであいさつをする児童が増えた。放課後は、運営委員会による「さよならあいさつ運動」も行っている。</p> <p>年度当初に比べて、あいさつの輪が広がっていると感じていたが、数値的には、下がっていた。あいさつができない児童について、今後、学級を巻き込んだのあいさつ運動を行うなど更なる、取組が必要である。</p>	<p>教室内のロッカーが整理整頓されていたのが良い。市民センターでは、挨拶を進んで行う児童が、低学年だけでなく、高学年にも増え始めていることが、成果として表れている。授業の号令の挨拶の声が少し小さいように思われる。授業者は、児童の挨拶を見届けた後、挨拶をするが良い。</p>	<p>運営委員会を中心とし、動画でモデルを示し各学級を巻き込んだあいさつ運動を行ったり、学校や地域の中でよいあいさつをした児童を全校で紹介したりするなど、進んであいさつができる児童の輪を広げていく。</p> <p>あいさつ名人の表彰を引き続き行う。</p>

評価計画					自己評価					学校運営協議会 委員評価 コメント	改善方策
中期経営目標 (めざす児童生徒像)	短期経営目標 (めざす児童生徒像)	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標	中間 8月	最終 2月	達成	評価	結果と課題の分析		
	◎自他のよさを認め合う仲間づくり	・児童の自主的活動の充実 ・学級や縦割り班での良いところ見付けの実施	・「自分はクラスの人や友だちの役に立っている」肯定的評価の児童の割合【小中共通項目】	80%	76%	79%	99%	B	自己有用感の肯定的評価の数値は、83.5%と目標値を若干上回った。 学級での「よいところみつけ」、運営委員主催の校内探検ツアーを縦割り班で回ったことなども、一因であると考えられる。また、学級の子ども達と絆が深まったことも要因であると思われる。	運営委員会や保健体育委員会など、委員会活動を充実させながら学校全体で自己有用感を向上させる取り組みを行っているのが良い。来年度も継続して取り組んでいきたい。	2学期には、校内探検ツアー、3学期には、5年生による縦割り班レクを計画している。さらに、日々の学級でのよいところ見付けを一定期間行う等、学校全体でも取り組んでいくことで、自己有用感を高めていく。また、教職員が児童の良いところや頑張りを認め、「ありがとう」の気持ちを伝える取組を継続的に行う。
<健やかな体> ・基礎体力の向上と基本的な生活習慣の確立	◎基礎体力の向上	・体力テストの分析と体育科授業の質の向上	・春と秋の反復横跳びの比較、伸びた児童の割合 ・「運動をするのが楽しい」肯定的評価の児童の割合	80% 85%	52% 90%	68% 89%	85% 105%	B	休憩時間の児童の様子を見ると、運動をしている児童と教室で過ごす児童が固定化している。外遊びをしている児童の遊び内容も固定化をしている。運動することは好きだが、多様な動きをすることへの経験が少なくなっていることが考えられる。	多様な動きを取り入れることが児童の体力向上へとつながっていく。多様な動きが簡単にできる「ゆるスポーツ」や「けん玉」を取り入れながら体幹を鍛えていくと、楽しみながら体力向上になると思う。	保健体育委員会の児童が、さまざまな遊びを紹介し、各学級で取り組むことで、休憩時間に楽しみながら、多様な体の動きを経験することができるようにする。来年度は校内で、大縄大会を企画し、学校全体で運動することへの意識を高める。
<信頼される学校> ・働き方改革の推進	・業務改善を通じた学校組織の活性化の推進	・行事、活動の見直し、精選	・子供と向き合う時間が確保されていると感じる教師の割合【市共通項目】	80%	94%	89%	111%	A	連絡会等の会議の精選や会議等の打ち合わせのない日を学期末に設定することを通して、放課後に教材研究や成績処理等の時間を確保してきたことが成果として表れた。また、校務分掌の見直しを行い、仕事内容の削減やスリム化を継続して図った。	コロナ禍からの取組の成果が表れている。業務改善を意識した取組を推進していく一方で、児童と教師が一緒に遊んだり関わったりする時間を大切にしていきたい。	Google ドライブへのアクセス等が校務用PCで行うことができるようになり、ICT環境がさらに良くなった。来年度は、保護者への配布物のメール配信や、職員への提案資料等もデジタル配布を行い、ペーパーレス化を推進していく。ICT環境を通じた校務の効率化を図っていく。
・コミュニティ・スクールの推進	・地域と共にある学校づくり	・地域学習の充実	・地域と連携したふるさと学習を全学年1回以上行った割合	100%	83%	100%	100%	A	83.3%の児童が「地域や社会をよくするために、何かをしてみたい」と肯定的な回答をし、3.3%上昇している。全学年において、年間を通じて計画的にふるさと学習を行うことができた。地域の方との交流を通して、人々のあたたかさに触れたり、地域のために活動することを聞いたりしていくことができたことにより、地域の一員としての自覚が芽生え始めていると考えられる。	PTAが地域行事に協力する姿や地域の人たちの姿を通して、児童は地域の中で支えられていると感じていると思われる。来年度は是非、高学年児童も一緒に熱議の場に参加し、地域と連携した取組を行っていただきたい。	来年度は、四季っ子応援団や四季が丘市民センター等の関係機関と児童の学びであるカリキュラムを共有していく。カリキュラムを共有しながら、ふるさと学習を充実改善するための熱議を行い、児童が地域の一員として活躍できるような学習活動を展開していく。